

こちら ラジオNIKKEI

今週のテーマ：「跳び続ける23歳・メジロワース」

今週の担当：船山陽司

実況席

1985年4月17日に生まれたメジロワースは今年23歳。オグリキャップ、スーパークリーク、サクラチヨノオー、ダイユウサク、サッカーボーイと同世代の老雄は、今も「現役」を続けている。

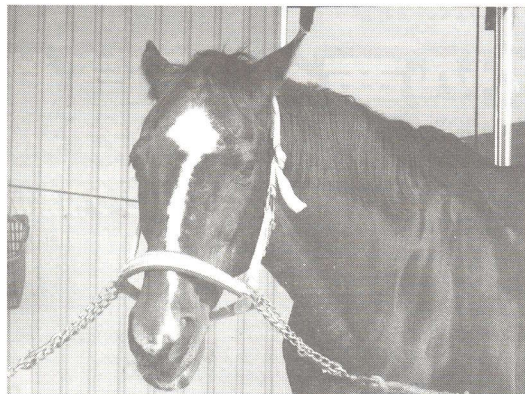
競走馬時代にマイルズCを制し、障害で11勝も挙げたモガミ産駒は9歳（当時の表記では10歳）で登録を抹消。馬術競技の世界に活躍の場を移した。息の長い活躍を続ける馬が多い馬術競技の世界でも20歳を超えてもインカレに出場している馬は、それほど多くはないようだ。

ようやく日差しに春を感じるようになった3月半ば。埼玉県にある立教大学馬術部を訪ねた。荒川の土手沿いに砂利道を進むと厩舎が現れる。住宅や畑も多い場所に、唐突に馬の姿が見えてきた。都心から1時間もかからない場所にある和やかな風景だ。

創部80年を超える名門には現在9頭のサラブレッドが所属。アルゼンチン共和国杯2着の他、障害重賞を2勝しているメジロロンザン、青葉賞やダイヤモンドS2着など重賞で活躍したメジロランバートといった豪華なメンバーが揃っている。

朝8時半に厩舎に行くと、既に学生達が飼葉を与え、運動を開始。最長老のメジロワースは柔らかい日差しを浴びながらブラッシングをしてもらっていた。

「冬場なのに毛艶も良いし、気持ちも若々しいし、とにかく元気なんですよ」と話すのは、メジロワースと組んで何度も試合に出場している4年生の山本侑輝君。「ワー爺」とも仇名される元気なおじいさんは、ブラッシングをしてくれている山本君を盛んに威嚇していた。



23歳のメジロワースは、馬術競技で現役生活を続行中！
「ワー爺」と仇名される今も、
気性の激しさは変わらない。

「頭が良いから、人間が驚くのが分かっているんですよ。人の足を踏みつけようとしたり、人を狙って蹴りにいったりするんですよ」と語られる気性の激しいご老体。「OBによると、昔はもっと大変だったそうです（笑）。馬運車で大暴れして1年近く競技を休む怪我をしてからは、少し大人しくなったみたいです。それでも天気が悪いと機嫌が悪くなったり、お腹が空くと馬房の壁を蹴り上げたりするんですけどね（笑）」しかし、こうした気性の激しさがあるから若さを保っていられるのだろう。

そして、この気性の激しさは競技には大いに役立っている。「どんなに高い障害でも怯むことなく跳んでくれるんです。気の弱い馬だと元気づけながらいけないといけませんが、メジロワースは前向きなので、待っていればしっかり跳んでくれる安心感があります。高校から大学に進むと障害の高さが違うのですが、慣れない高い障害でも跳び方をワー爺が人間に教えてくれるんですよ」馬に教わるという話は競馬でもよく耳にするが、馬術でも同じようだ。

「みんなこの馬に教わってきているんです。僕達にとって先生みたいな存在ですね」にこやかに話す山本君の言葉には溢れる愛情が感じられた。

いったん引退の話も持ち上がったが、有り余る元気に現役続行が決まった。さすがに23歳ともなると、肉体的な衰えはあるようだ。脚も痛くなりやすいし、大会の後は十分に休ませないといけないそうで、いつま



で現役でいられるかは分からない。メジロワースの勇姿を見たい方は、早めに試合会場に足を運んでみたほうが良さそうだ。

ちなみに大学4年生の山本君は1986年生まれ。メジロワースよりも年下だ。そんな時代になったのねん。

▲ メジロワースに騎乗している山本侑輝君
◀ 山本君より年上になるメジロワース